

# 京橋MIDビル

Kyobashi MID Building

No. 12-036-2015作成

新築  
事務所

発注者	MID都市開発株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	大成建設株式会社 一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

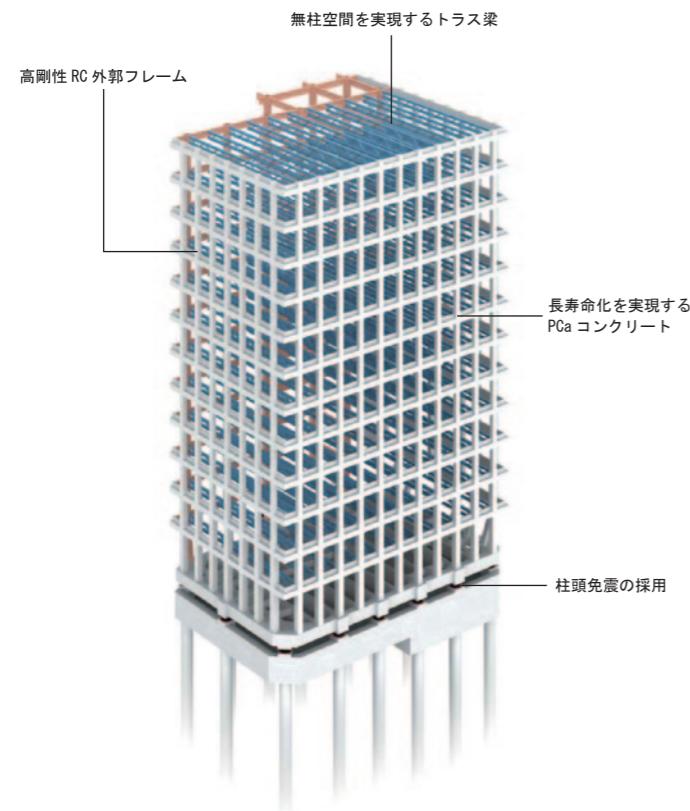
## 環境制御デバイスを兼ねた堅牢な構造フレーム

### 設計趣旨

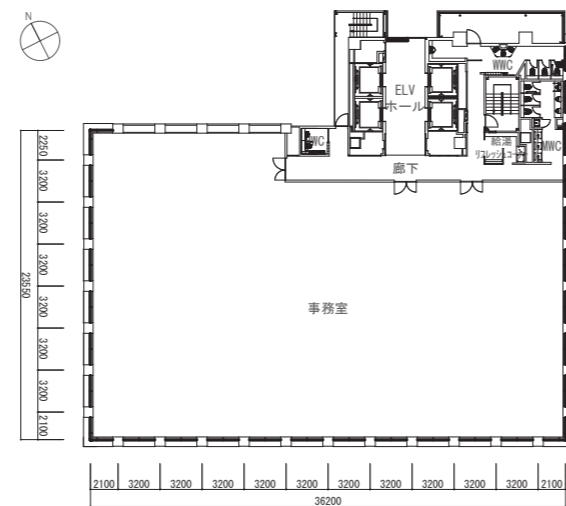
京橋の昭和通りと鍛冶橋通りの交差点に面する、マルチテナントビルである。外観は花崗岩を打込んだ高強度PCa構造体による彫りの深い格子状デザインとし、室内に柱型が現れない整形な約770㎡のオフィスを実現している。構造体はボックス庇として機能し、東・南・西に開口を有しながらPAL値206の高い日射遮蔽性を実現している。各窓廻りには国内初となる外付アニドリックルーバーを設け、快適性と省エネに寄与させた。また知的生産性向上に寄与する提案として、ルーフトラスや各階のリフレッシュコーナーを兼ねた給湯室など、ワーカー同士のコミュニケーションを促す工夫を随所に仕掛けている。T-zone saverによる照明・空調の自動制御、全館自然換気、免震構造の採用など、テナントが付加価値を感じられるような先進的な環境配慮・BCP対策を積極的に導入している。



外観写真



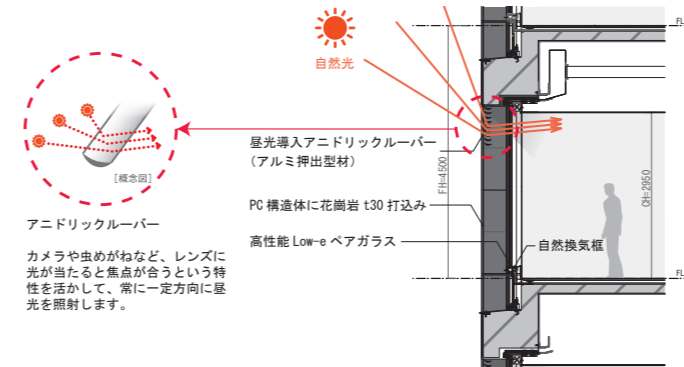
構造ダイアグラム



基準階平面図

## 国内初の外付けアニドリックルーバー

窓廻りには太陽高度に左右されずに一定方向へと昼光を導入可能な国内初となる採光ルーバーを開発・導入した。昼光センサーの併用で照明エネルギー消費量を年間5%程度減らせると試算している。



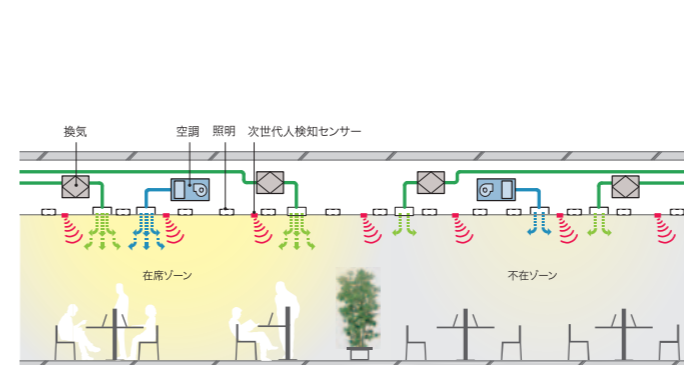
基準階外装断面図



事務室内観

### T-zone saverによる照明・換気・空調の自動制御

全フロアの執務室に人の滞在・不在を精度高く検知する次世代人検知センサーを全フロアに採用し、利用者が不在になると照明・空調を荘園モードに切り替える細やかな制御を可能としている。



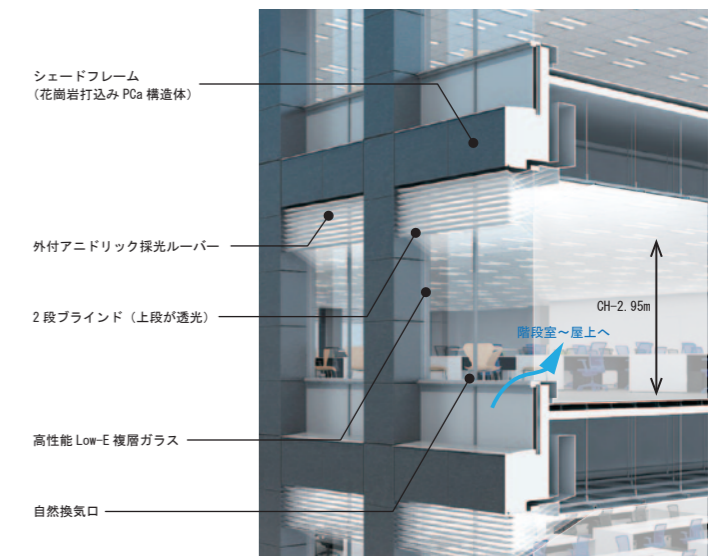
T-zone saver による照明・換気・空調の自動制御

### 設計担当者

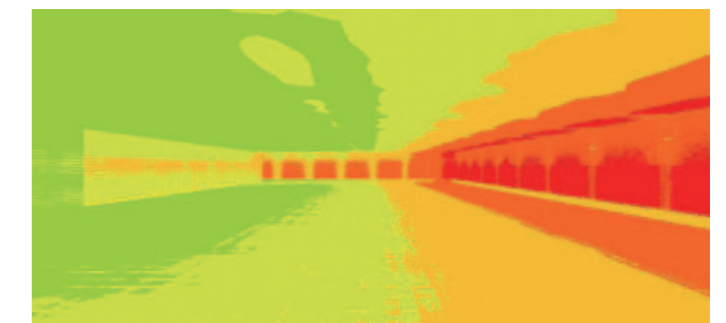
統括：井深誠／建築：中藤泰昭、藤本鉄平、伊藤大輔、松村和昭、川岡秀郎、日野敦博／構造：新田隆雄、小林治男、櫻井佑美、有山伸之／設備：熊谷智夫、梶山隆史、小林徹也、安藤直也／電気：熊谷智夫、小林 徹也／設備計画：小林 信郷、横井 睦己、大木 泰祐

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (免震装置の導入、外装仕上材の補修必要間隔30年以上、内装仕上材の更新必要間隔20年以上)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (空間のゆとり：階高3.9m以上、荷重のゆとり：4500N/㎡以上)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (昼光導入ルーバーにより昼光を図る、太陽光発電の設置)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水器具の採用)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (主要構造部にリサイクル資材を使用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (自転車置場の設置、適切な駐車スペース及び車両動線の確保)



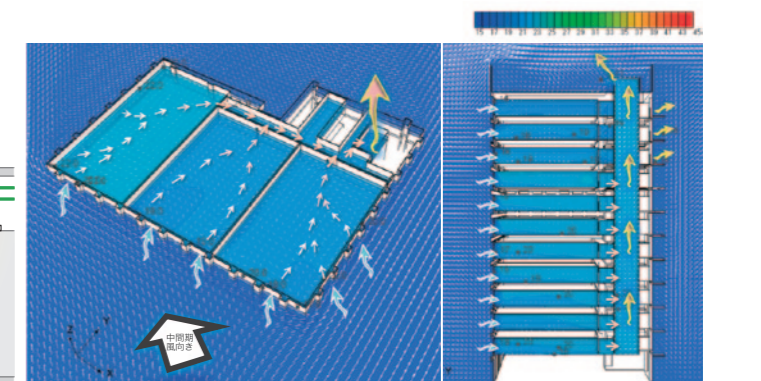
基準階外装ダイアグラム



事務室照度分布シミュレーション

### 自然エネルギーを有効に活用した全館自然換気システム

外装まわりの自然換気口から導入した外気をコア内の階段吹抜けを利用して屋上より排気することで、吹抜けの高低差による煙突効果により高い自然換気性能を確保する計画としている。



基準階温度分布平面 吹抜部温度分布平面

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 32 %	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 22 %	BEE=3.5
敷地面積	LCCO <sub>2</sub> 削減 46 %	2010年度版 自己評価
延床面積		
構造		
階数		

